

「世界平和の祈り」は全託の祈りである

2011年6月19日 於：神奈川集会

五井先生の教えは他力易行道

「五井先生のお言葉ならば信じるけれど、森島先生のお言葉はまだ半信半疑です」という人が結構いるのです。そのために、私は自分の言葉で書けば楽なだけで、五井先生のお言葉を書き出して説明していたのです。そうすると、やっと信じてもらえるのです。ところが面白いことに、そうしていると、今度は「五井先生のお言葉でなく、森島先生自身のお言葉で書いて下さい」と言う人が出てきたんですね。そう言われたから自分の言葉で書いていると、またまた「そんな教え、五井先生のご本のどこに書いてあるんですか？」と質問する人が出てくるのです。ですから、できれば五井先生のすべての本を少なくとも何回か繰り返し読んでから私に質問してほしいのです。そうしないと、五井先生が私の言っていることを本当に書いているか書いていないかだけで時間が費やされてしまうのです。そんな基本的なことをいちいち私が教えていたら忙しくて仕方ありません。それは各自で勉強したり先輩に聞いたりして探してほしいのです。

さて、「神様にも頼ってはならない」と教えている宗教家がいるそうですが、神様に頼って何が悪いのでしょうか。五井先生や私の教えていることは他力易行道の教えなので、神様に頼りたくない自力の人は他の宗教家に学んで下さい。

もちろん依頼心と全託心とは違います。依頼心というのは、自分の為すべき責任を果たさず、自分でやるべきことも他人に頼り、他人に依存して生きようとする業想念です。それに対して、全託心は神様に頼る心で、これは本心であり、正しい行為です。「自力では何事も為し得ない」と知った人が神様に頼り、全託するわけです。

私は神様に頼り切りに頼っています。私は大地に頼っています。私は空気に頼り、水に頼っています。自分のことは自分でやりますし、自分のことは自分で責任を果たしますが、自分一人で出来ない時は他人に頼ることもあります。他の人々の助けを得なくては私たちは生きてゆけません。私たちは電気を作る人に頼り、コンピュータ会社に頼り、食物を毎日供給してくれるスーパーマーケットに頼っています。人から助けを借りる時には素直に助けを借りてよいのです。

「私は神様に頼らず、人にも頼らず、自力で生きるのだ」などという傲慢な人の教えをまともに聞いてはいけません。神様に頼らずに私たちは生きてはゆけません。神様に頼らせて何が悪いのでしょうか。現在の地球は、人間が自分勝手に行動した結果、破滅寸前に至っています。もう人間の自力では運命を善くすることは不可能なのですから、素直にその

現実を認めて、神様に頼って、神様に生命を差し上げて、「神様のみ心のままに人類の運命を作り直して下さい」と、神様に運命を頂き直す必要があるのです。

私たちの生き方は自力行ではありません。神様に頼る他力行であるのです。赤ちゃんが母親の胸に抱かれるように、素直に神様のみ心に任せるのです。母親が抱っこしようとしているのに、赤ちゃんが手足をバタバタさせて暴れたら、母親の胸から落ちてしまいます。神様に素直にお任せするのです。

「世界平和の祈り」は天下無敵

昌美先生を完全には信じていないけれど、昌美先生を信じる気持ちもまだ残っている。そういう人が多いようです。昌美先生を信じながらも、五井先生の本をよく読むにつれて、「昌美先生はひょっとして間違っているかも知れない」とふと想い、私の法話を読んで納得しながらも、「昌美先生に対抗する手先にさせられたらそれも大変だ」と私に対しても半信半疑でいる、そんな人もいます。しかし、そうやって想いが迷ってフラフラフラと揺れ動いているようでは駄目なのです。そのような人は、ご自分の信じる信仰を一つに定め、徹底的にやってみることをお勧めします。もし昌美先生を信じるならば、徹底的に昌美先生を信じなさい。私が何と言おうと構わずに昌美先生を信じることです。もし五井先生を信じるならば、五井先生以外の人を信じないで、五井先生だけを徹底的に信じなさい。誰が何と言おうと五井先生の教えだけを信じるのです。もし私を信じるならば、私を徹底的に信じなさい。もしどの宗教者の教えも半信半疑で誰をも信じることができないければ、あなたご自身を信じなさい。フラフラフラフラと他人の意見に左右されて迷い続けては駄目です。

はっきり申し上げて、五井先生の教え以外の昌美先生の教えは念力の教えです。そんなことは、五井先生の本を読めば、余程頭の悪い人でない限り、昌美先生の教えは念力であり、五井先生の教えではないと気づくはずですが、しかし、だからといって私は昌美先生に対抗しようとは思っておりません。私は念力を教えている宗教者などまるで問題にしておりません。念力主義者に対抗しようとも思っておりません。私はそんなちっぽけな宗教者ではありません。

「世界平和の祈り」は天下無敵の、何人とも争わぬ大調和の祈りであるのです。念力を教えている宗教者は、正しい祈りの大光明に照らされて、いずれ消えてゆきます。五井先生が教えて下さっているように、私も祈りと念力の違いについては誤解しないようにと口を酸っぱくして説いておりますが、念力主義者に対する対抗心は少しもありません。対抗心は業想念であるのです。私は「正しい宗教とは何か」を説き、是々非々は説きながらも、何人とも争わず、何人とも対抗せず、すべての過ちは消えてゆく姿として「世界平和の祈り」を広めているのです。「世界平和の祈り」は天下無敵の祈りであるのです。

「世界平和の祈り」は全託の祈りである

五井先生のお言葉を集めた『如是我聞』を読みますと、「思いこむ」「思う」「想いつづける」「想うこと」などといった言葉がたくさん出てまいりますが、だからといって、自力で思い込む練習をする必要は一切ありません。「世界平和の祈り」を祈っていれば自然にそう思えるようになるからです。

もちろん五井先生は他力行について説かれているわけですが、それでは、具体的にどうしたらそう思えるようになるのかと申しますと、次のように祈ればよろしいのです。

「守護霊様、（守護霊様の）み心のままに、（すべてを）なさしめたまえ」

これは「全託の祈り」と言いますが、この「全託の祈り」を祈っておりますと、自然に「守護霊がすべてを為さしめて下さるのである」と思えるようになるのです。この「全託の祈り」と「世界平和の祈り」とは、他力の祈りということで共通しています。「世界人類が平和でありますように」という祈りは、「神様、神様のみ心のままに、世界人類が平和でありますように、為さしめたまえ」という意味であるのです。「世界平和の祈り」が他力行であることを強調するために、このように五井先生はしばしば「全託の祈り」を教えていたのです。

なお、守護の神霊に全託することは勇気のいることですが、最も安全な方法でありまして、少しも危険ではありません。守護霊に「世界平和の祈り」を祈っている限り幽界の生物に憑依される心配もありません。

現代の祈り言は「世界平和の祈り」

祈りは、キリスト教だけでなく、神道でも仏教でも、言葉や表現は異なっても、祈りには違いありません。前にも少し書いたけれど、「神様、～でありますように」という日本語での祈りの表現は、現代語訳聖書が日本で出版されて以来一般的に多く用いられるようになってきたと思います。それ以前は、日本の祈りと言えば「神様、～給え」という祈り方が多かったのです。

日本語は、この百年間で大きく変化しました。そして、現代語が定着した段階で「世界人類が平和でありますように」が生まれたのです。現代語の祈り方ですから、古語の祈り方と比べて若々しいです。だから、カッコいいし、若者向きでもあると思います。「世界平和の祈り」はもう古い、今は『世界は平和である』と真理を宣言する時代だなどということをお説いている人がいますが、それは行き過ぎでありまして、「世界平和の祈り」はまだ生まれたばかりであり、今これから大きな光明力を発揮してゆくのです。

「世界人類が平和でありますように」……なんて美しい言葉でしょう。こんな美しい言

葉を日々祈ることのできる私たちは本当に幸せです。「世界平和の祈り」は大光明を今も放っているのです。

質疑応答 1 : 「神様お願いします」に付け足す言葉

【ご質問-1】 [「神様お願いします」に何か付け加えてよいか]

「神様お願いします、世界人類が平和でありますように」を実行させていただいて感じたのですが、このお言葉は、この後ろに何も付け足さなくてもよろしいのですか？ 或は付け足さない方がよろしいのですか？ できれば、森島先生のお考えと、五井先生の実施していた方法の両方を教えて下さるとありがたいです。

【お答え-1】 [何も付け足す必要はないが、付け足したければ付け足して構わない]

「神様お願いします、世界人類が平和でありますように」の後には何も付け足す必要はありませんが、もし付け足したい言葉があったら付け足しても構いません。どちらでもよいのです。

「世界平和の祈り」というのは、元々次のような文体構造になっています。

(神様 お願いします)
世界人類が平和でありますように
日本が平和でありますように
私達の天命が完うされますように
守護霊様 ありがとうございます
守護神様 ありがとうございます

「世界平和の祈りには、『何々でありますように』という祈りの文体があり、既に『神様お願いします』という意味がその中に含まれているから、言わなくとも分かるだろう」と五井先生が判断されて、その言葉が省略されているのです。

なお、「何々でありますように」という「～に」止めの祈りの表現は、文語訳聖書の後、現代語訳聖書が日本で翻訳されるようになった頃から一般に用いられるようになった比較的新しい現代的な表現であるのです。それまでは、神道式の「祓い給え」「成就せしめ給え」「かしこみ申す」、一般では「よろしゅうお頼み申します」、漢文調の「祈願、家内安全、病気治癒、商売繁盛」、それから、従来ある「南無阿弥陀仏」のような仏教的祈願が多かったようです。

「世界人類が幸せ（平和）でありますように」という祈り言は、生長の家の谷口雅春教祖が既に神示として本に書いていたのですが、特に重要視することなく、大量の原稿の洪水に流されて、著者にも読者にも忘れ去られてしまったのです。五井先生は、その一言を

捨てることなく拾い上げて、神示を生かしたわけです。そこで生長の家の神様が五井先生に移ってきたわけです。「多弁饒舌が生長の家の誤りだった」と五井先生は述懐されていきました。多弁饒舌のために、大事な神示の言葉が失われてしまったのです。他山の石として私たちも自戒しなければならぬところです。

なお、「神様お願いします、世界人類が平和でありますように」という祈り方は、五井先生の執筆された本によっては一言も出てこない本もあります。執筆された本には、この教え方は非常に少ないのです。ところが面白いことに、聖ヶ丘講話では、五井先生は頻繁にこの方法をお説きになっており、『五井先生講話集』には「神様お願いします、世界人類が平和でありますように」という祈り方が多く出てきます。

私は、自分でこのやり方を発明して説いているわけではなく、五井先生が教えて下さった方法をそのまま実行し、そっくり説いているだけなのです。ただ、どういうわけか気づく人がいないことと、私以外に実行している人が一人もいないので、「それは森島先生の独自の考えだろう。五井先生の教えではないのではないか」と疑われて苦勞するのです。私は五井先生の教えをそのまま実行しているだけなのです。この事実は、五井先生の本をよく読まれている方にはお分かりいただけると思います。「私は五井先生の本をすべて読んだが、そんな教えは五井先生は一言も説いていない」と豪語している人もいますが、高慢な人には五井先生の教えの大切な言葉が目に入っていないのは不思議なことです。

質疑応答 2 : 大悟に至るまで

【ご質問-2】〔森島先生が大悟した時の状況を教えてください〕

私は「自分には悟りは無縁だ」と思っていました。しかし、五井先生の本をよく読むと、「もしかしたら私も」などと希望が湧いてきます。そこで、もしもよろしければ森島先生が大悟した時の状況などを教えていただけませんか？

【お答え-2】〔余計な行を捨てて「世界平和の祈り」に専念すれば誰でも必ず大悟に至る〕

私は若い頃、「今の自分を見ますと、とても悟れそうもありませんが、こんな私でも来世には悟れますでしょうか？」と聖ヶ丘道場で五井先生に質問したことがあります。すると五井先生は「今生のうちにあなたは悟れます」と私にお答え下さいました。五井先生からそうお答えいただいても、五井先生はよくそうやって人のことをお褒めになったりおだてるので、私は大して喜ばず、本気にしませんでした。「そんな、まさか。私のような者が今生で五井先生のように悟れるはずがない。きっと私を励まして下さるための嘘だろう」と思い、五井先生の優しい愛情だけを受け取りました。これは聖ヶ丘講話録音テープにも収録されていて、「聖ヶ丘講話の録音テープを聞いていたら、森島先生のおその質問にお答え下さっている五井先生のお話がありました。五井先生は二十年以上も前に森島先生が今生で悟るということを既に約束されていたのですね」と驚いて報告してくれた人がありました。「録音テープにあった」と聞かされるまでは、私もすっかり私も忘れていたのです。

五井先生が約束された通り、私は今生で悟らせていただいたのですが、それではその状況を記すことにしましょう。

1990年頃(40歳)のことでした。昌美先生が「光明思想徹底行」を発表した頃と重なります。それまでの昌美先生は五井先生のみ教えと殆ど同じ内容を説いていたのですが、この頃から昌美先生は、「光明思想徹底行」から始まって、五井先生のみ教えと違った独自の方法を次々と発表してゆくことになります。私は昌美先生の光明思想に関する文章を読んで、「これは五井先生の光明思想と少し違っているのではないか？」とふと疑問が湧いたのです。そこで、五井先生の「光明思想」に関するデータを五井先生のすべての本から抜粋し、ワープロで整理して小冊子にまとめて改めて熟読しますと、五井先生の光明思想と昌美先生の光明思想とは明らかに異なることが分かりました。その時、「これは大変なことになった！昌美先生は五井先生の光明思想を誤解して、生長の家の光明思想に逆戻りしてしまっている！五井先生が『してはいけない』と教えたことを昌美先生がやってしまっている。これは何とかしなければ！」と私は思ったのです。

そして、やむにやまれず、「昌美先生の光明思想についての解釈は、失礼ながら間違っております。五井先生の光明思想の行とは世界平和の祈りを祈ることに集約されているのです。今のうちに光明思想徹底行を中止させないと、五井先生のみ教えを汚しかねませんし、昌美先生の名誉にとっても取り返しのつかない大変な事態になりかねません。どうぞ、五井先生の光明思想の行は世界平和の祈りの行にあることを知って下さい」と、私は昌美先生にお手紙を差し上げたのです。しかし、ご返事はいただけず、それどころか、私の助言を誤解したのか、その後の白光誌で、昌美先生は「光明思想徹底行を邪魔する暗黒思想の持ち主がいる」と書かれたのです。暗黒思想を消えてゆく姿として否定するのが光明思想であるのに、暗黒思想を存在するものとして敵対意識を持つ光明思想では真実の光明思想ではありません。昌美先生が私の助言を理解されなかったことに私は失望しました。

その頃、私は五井先生の光明思想についての理論をはっきり掴んで、「世界平和の祈り」への統一が非常に深まってまいりました。「世界平和の祈り」に深く統一してゆくにつれて、五井先生のみ教えがすべて分かるようになってきたのです。「私はすべてが分かりました」と島田重光先生にも話しました。そこで、昌美先生に期待することはもうやめて、「自分で五井先生のみ教えを伝えてゆこう」と決意したのです。それからは、白光真宏会の古くからの友人知人に「五井先生の光明思想の行とは世界平和の祈りを祈ることなのです」と一人ずつ教えてゆくことにしたのです。

「世界平和の祈り」とは、悟りの世界の光明であり、「世界平和の祈り」を祈っていれば誰でも悟れるのですが、途中で余計なことをやって悟れずにいるのです。「世界平和の祈り」以外の余計な行は一切捨てて、「世界平和の祈り」に専念すれば、必ず大悟に至れるのです。

【ご質問-3】 [大悟した五井先生でも何かを間違えたり勘違いすることはあったのか]

大悟した五井先生は、お話の中で何かを間違えたり勘違いしてお話されたことはありませんか？

【お答え-3】 [み教えの根本原理について学び実践すべきで、枝葉のことには把われない]

これは私の過去のログにも書いたことなので、それをお読みになればお分かりと思いますが、五井先生はお話の中で事実を間違えたり勘違いされたりしたことは多少ありました。五井先生の正直で謙虚なお言葉をそのまま伝えれば、「私はしょっちゅう間違えます」と五井先生は私に直接おっしゃったこともあります。「私は毎日反省しています」とも五井先生はおっしゃっていました。しかし、過去の聖者のお話と比較すると間違いが非常に少ない方だと思います。

但し、「消えてゆく姿で世界平和の祈り」というみ教えの根本については間違っはおりません。ですから、私たちは五井先生のみ教えの根本原理について学ぶべきでありまして、「五井先生がこう予言した」とか「五井先生が誰それについてこう評価した」とかというような枝葉のことなどは、たとえ事実と違っていても、それに把われないで、「世界平和の祈り」を信じて生きてゆくべきなのです。

【ご質問-4】 [途中で心境が転落することがあるか？]

「世界平和の祈り」をしている人でも、途中で心境が転落することはあるのですか？

【お答え-4】 [余計な行に走らず、「世界平和の祈り」を祈っている限り迷うことはない]

大悟した人は途中で迷うということはありませんが、小悟の人は様々な誘惑や他の思想に影響されて途中で心境が転落することがあります。「世界平和の祈り」を祈っていた人でも、他の行法をやるようになれば、それは「世界平和の祈り」を否定したことと同じであり、迷いの証拠であるのですから、心境が落ちてしまうのです。「世界平和の祈り」を祈っている限り、心境が向上することはあっても逆行することはありません。「世界平和の祈り」以外の余計な誤った行法はしないことです。

【ご質問-5】 [気持ちよくなるから統一をするというのは間違いか]

統一を“気持ちよくなるから実施”するというのは間違いですよ。

【お答え-5】 [「世界平和の祈り」に飛び込んで分かる気持ち良さ]

統一行をやっている時、途中の幽界の段階で「よい気持ちになる」というのは、自惚れや名誉欲、金銭欲、物質欲、権力欲などを満足させられてよい気持ちになるということです。そのようなよい気持ちには気をつけなさい、と五井先生は注意しているのです。

但し、「世界平和の祈りは神のみ心のひびきにあれば祈る楽しさ」という五井先生のお歌のような法悦感でよい気持ちになることは、これは悪いことではありません。真実の統一状態とは、明るく爽やかな心になり、生命が生き生きとしてきて勇気が湧いてくるもの

です。業想念の満足による気持ちよさか本心の満足による気持ちよさかは、統一行を練習するにつれてはっきりと区別することができるようになります。理屈をある程度知って正しいと信じていることができるようになったら、今度は思い切って実行してみるしかありません。「世界平和の祈り」を祈らないであれこれ心配しても先に進めません。「世界平和の祈り」に飛び込むことをお勧めします。

質疑応答 3：感謝の祈りについて

【五井先生への感謝の祈りについて】

【ご質問-6】〔「世界平和の祈り」に五井先生への感謝を入れるのは一宗一派的では？〕

五井先生は自らの教えを一宗一派とは思っていなかったことがご著書からよく伺えますが、この観点からすると、世界平和の祈りに「五井先生ありがとうございます」を入れるのは一宗一派のような気もするのですが、これはいかが思われますか？（というか、殆どの方がそう祈っているのに、活字の本とかには書かれてなく、嘘をついているようで気持ちが悪いです）

【お答え-6】〔唯一会では五井先生への感謝のない発表当時の「世界平和の祈り」を祈る〕

ご指摘のこの問題は非常に重要な問題であり、物事を深く考える真面目な人であればあるほど悩んでしまう大問題であるのです。なぜこんなふうな祈り方になったのかという経緯についてお話ししますと、もちろん初めは、五井先生がお書きになった通り「守護霊様ありがとうございます、守護神様ありがとうございます」だけだったのです。その後しばらくして、信者さんの方から「『五井先生ありがとうございます』を加えさせて下さい」と申し出てきたのです。それを五井先生はご許可されたのです。しかし、五井先生ご自身が「五井先生ありがとうございます」と言うのは常識から考えて不自然ですし、どう考えても変ですから、その部分については五井先生は黙っているという形式になったのです。

五井先生のご著書にある「世界平和の祈り」が正式な祈り方であるのですが、このように白光真宏会の会員としては、五井先生への感謝をこめて「五井先生ありがとうございます」を加えた祈り方をするようになったわけです。しかし、活字として書かれていないことを、白光真宏会の会員になると「五井先生への感謝の祈り」を加えて祈ることに対して納得がゆかない人もいると思うのです。それは「五井先生を尊敬していないから」というわけではなく、五井先生のご本には載っていないのに、入会したら「五井先生への感謝の祈り」を祈るという表と裏の二つの違いに対して気持ちが納得できないのです。友人に「世界平和の祈り」を勧めようとしても、表面では「五井先生ありがとうございます」のない「世界平和の祈り」を勧めておいて、その友人を集会に連れてゆきますと「五井先生ありがとうございます」と祈らせるのですから、真面目な人にとっては、まるで嘘をついているようで何とも納得できないのです。その気持ちは私にもよく分かります。「世界平和の祈り」を祈る人は、当然なことに誰でも心の中では五井先生を尊敬し、五井先生に感謝しているわけです。「五井先生に対して少しも感謝を感じないから、『五井先生ありがとう

ございます』と祈りたくない」と言っているわけではないのです。活字に書いてあることと実際に行なうことが違っていることに対して、言行不一致のようで、どうにも気持ちがスッキリとしないのです。

私にとりまして、この問題は常に頭から離れなかった大問題であり、そのため、「『五井先生ありがとうございます』という祈りについて皆さんはどう思いますか？」というアンケートを採ったこともあります。その結果は、「五井先生と会ったことがないために親近感は余り感じない」という正直な感想はありましたが、五井先生への感謝の祈りについては、皆さん全員が「自然に祈れる」とお答えいただいたので、白光真宏会と同じように、唯一会の集会においても、その時は「五井先生ありがとうございます」を加えて祈ることにしたのです。でも、「『五井先生ありがとうございます』と私は祈りたくない」という人がもし一人でもいたら、その時は、五井先生への感謝の祈りのない、五井先生の教えのままの「世界平和の祈り」にしようと思っていたのです。

さて、「『五井先生ありがとうございます』という五井先生への感謝の祈りがなければ五井先生は現れないし、偽物である可能性もあり、危険だから、私はそんな集会には行かない」という頑固な人もいます。「五井先生というのは五つの井戸、古事記にある天（てん）の真名井（まない）のことで、五つの直霊を現していて神霊のお名前であるから、一宗一派ではなく、五井先生への感謝の祈りは必要なのだ」というご意見もあります。また、「五井先生ありがとうございます」という祈りは「世界平和の祈り」以上に霊的な効果があると秘かに信じている人もいて、「世界平和の祈り」よりも、「五井先生ありがとうございます」とか「ごいせんせい」とだけ唱えている人もいるのです。それは、五井先生という肉体を持った姿形のある聖者に統一した方が、何も姿形のない宇宙神に祈るよりも統一しやすいという理由もあります。

しかし、「五井先生というお名前は五つの直霊のお名前のことだから一宗一派でない」と言っても、世間ではそうは見えてはくれません。五井先生というお名前を入れれば、それは一宗一派だと見られてしまいます。白光真宏会は宗教法人の形式を取っておりますが、「世界平和の祈り」は一宗一派の祈りではありません。しかし、五井先生や私たちがそう言っても、世間の多くの人々は、「白光真宏会は一宗教団体ではないか」「世界平和の祈りは白光真宏会だけがやっている一宗教団体の祈りではないか」と見ているわけです。そこで五井先生は、「世界平和の祈りはどこの宗教団体がやっても構いません。白光真宏会だけの独占ではありません」と「世界平和の祈り」を公開されたのです。そのご意志を生かして WPPS や五井平和財団が設立され、「世界人類が平和でありますように」という祈りを宣布しているわけです。

ところが、WPPS や五井平和財団では、確かに「一宗一派ではない」という利点はあるものの、五井先生の教えにある「守護の神霊への感謝の祈り」がないのですから、他の宗教団体の人にとってはよいのですが、五井先生の教えを信じる人にとっては信仰心を充分に満足させるわけにはゆきません。信仰心を満足させるには守護の神霊への感謝の祈りが

なくてはなりません。そうすると、五井先生が提唱された本来の「世界平和の祈り」が一番よいことになり、本来の「世界平和の祈り」を実行する唯一会が必然的に現れたのです。唯一会の役目は、多くの人に広めるよりも前に、まず五井先生の教えをしっかりと守ることに専念する、ということです。それでいても、いつか時期がまいりますと、一気に世界に認められる時がきますが、それまでは静かにやっていたらよいのです。「世界平和の祈り」は神智から生まれた既に完全な祈りであるのですから、それを浅薄な肉体知で改悪してはなりません。

ちなみに、かつて五井先生の小説『阿難』が出版され、数年後に編集部が「一般に分かりにくいから」という判断で『釈迦とその弟子』というタイトルに改めました。仏教に詳しい人は釈尊の弟子である阿難を知っていますが、宗教知識のない一般の人々には殆ど知られていません。阿難を主人公にしているものの、釈迦とその弟子たちの行動を描いた小説ですから、編集部としては『釈迦とその弟子』というタイトルの方がよいと判断したのでしょう。その頃、五井先生はまだ肉体界にいらっやあって、編集部からのタイトル変更について「自由にやっていたよ」とおっしゃったようです。ところが、五井先生が他界して数年たつと、「やっぱり五井先生がお付けになった元の『阿難』というタイトルの方がよい」ということになって、再び『阿難』が復活したのです。阿難は釈尊の弟子ですが、単なる弟子ではありません。歴大な仏道の中で他力易行道を最初に行じた人として、五井先生は特に取り上げたのです。『阿難』というタイトルを通して、五井先生は「他力易行道」を強調したかったのです。五井先生の直覚の方が、後になって考えてみると、やはりよかったです。『阿難』というタイトルの方が、私もずっとよいと思います。〔編集者注：『阿難』は出版当初の題名は『創作 阿難』で、現在の版は歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに改訂の上『小説 阿難』の題名の下に出版されています。〕

このように、五井先生が「いいよ」とおっしゃったことでも、必ずしも五井先生の本音とは限りません。しばらく実行しているうちに、「やっぱり五井先生が最初に教えて下さった言い方が一番よい」と思えてきたら、どんなに長い習慣となったやり方であっても変えてもよいのです。五井先生の教えには、「消えてゆく姿」の教えのように絶対に変えてはいけない部分と変えてよい部分とがあるのです。

さて、話しをもとに戻しますと、「世界人類が平和でありますように」と祈ることは、宇宙神にも五井先生にも感謝していることになるのですから、「五井先生ありがとうございます」と祈ろうと祈るまいと、その人その人のお好きなやり方で祈ればよいので、本当はどちらでもいいのです。五井先生への感謝の祈りに限らず、ご自分の納得できる祈り方で祈ればよいのです。しかし、「どちらでもいい」と言われると、自分で決められない人もいて、迷ってしまう人もいます。そこで、一応どちらかに決めておかねばなりません。また、「世界平和の祈り」に「五井先生への感謝の祈り」を加えようと加えまいと、それは各人の自由であるのです。個人ではどう祈ろうと構わないのですが、集団で祈る場合には、声を合わせて唱和できるように一つの祈り言に決めておく必要があります。その場合に、五井先生のご本に書いてある祈り言と実際に行なう祈り言が違うというのは確か

におかしなことだと私も思います。このような疑問が皆さんから出てきたのは、今がその点を明確にすべきちょうどよい時期だからでしょう。

「五井先生ありがとうございます」という五井先生への感謝の祈りは、五井先生を慕う信者さんにとっては加えた方が納得すると思いますが、元々はなかった言葉なのですから、集団で祈る時は省略してもよいのです。その方が活字で書いてある祈り言と実際に行なう祈り言が一致するのですから、むしろ適当であるとも言えるのです。その時代になったとも言えます。この機会に唯一会は、「五井先生のお誕生日」や「五井先生の命日」などの特別な日を除いて、集団で祈る時は「五井先生への感謝の祈り」を省略した「世界平和の祈り」を基本的な祈りとして定めて祈ろうと思います。

【守護の神霊への感謝の祈りについて】

【ご質問-7】〔世界平和の祈りに五井先生への感謝の祈りを加えた場合の推奨形〕

細かいことにこだわるようですが、五井先生は、世界平和の祈りに五井先生への感謝の祈りを加えた場合の推奨形はどのようにおっしゃっていたのですか？ 私の知っている範囲では、守護の神霊の感謝の祈りは下のような形があります。白光真宏会のテープでは、3番の形で「守護霊様、守護神様、五井先生、ありがとうございます」となってます。

- (1) 守護霊さん、守護神さん、ありがとうございます
- (2) 守護霊様、ありがとうございます
守護神様、ありがとうございます
- (3) 守護霊様、守護神様、ありがとうございます

【お答え-7】〔唯一会では五井先生の毛筆直筆の「世界平和の祈り」の通りに祈る〕

(1) から (3) までの表現はすべて五井先生が教えた表現ですから、五井先生の推奨形というのはなくて、すべてが正しいのです。「五井先生ありがとうございます、世界人類が平和でありますように」と祈っても間違いではありません。白光真宏会の集会では(3)の形式でお祈りしております。五井先生は、時によってしばしば表現を変えて書いたりお話をなさっていたのです。どれをやっても正しいのですから、ご自分の好きなやり方でやったらよいのですが、「自由にやってよい、どれでもよい」と言われると不安になって困る人もいるでしょうから、そういう人のために一つに定めておこうと思います。

まず「守護霊さん」にするか「守護霊様」にするかの問題です。どちらでもよいのですが、「守護霊様」の方が丁寧な言い方ですから、集団で祈る時には「守護霊様」の方がよろしいでしょう。次に「守護霊様、守護神様、ありがとうございます」にするか、「守護霊様ありがとうございます、守護神様ありがとうございます」にするかは、やはり前者よ

りも後者の方が丁寧な言い方ですから、どちらかと言えば後者の方がよいと言えます。省略して短く言った方がよい場合もありますが、前者は省略のしすぎであると思うのです。この点で、白光真宏会の英語版「世界平和の祈り」の“**We thank thee ~**”と守護の神霊をひとまとめにして感謝する祈り方は、私はどうしても納得がゆかないのです。唯一会の英語版の祈りでは、「守護霊様ありがとうございます、守護神様ありがとうございます」と祈ります。

また、五井先生のご著書に載っている毛筆直筆の「世界平和の祈り」も、聖ヶ丘道場の壁に掲げられていた大きな額の「世界平和の祈り」も、「守護霊様ありがとうございます、守護神様ありがとうございます」となっております。五井先生の手書かれた多くの事例を総合的に検討してみますと、守護の神霊への感謝の祈り言には色々な表現がありますが、やはりこの祈り方が「基本形の守護の神霊への感謝の祈り」であり、「基本形の世界平和の祈り」であると言えます。

世界人類が平和でありますように
日本が平和でありますように
私達の天命が完うされますように
守護霊様 ありがとうございます
守護神様 ありがとうございます

なお、「世界平和の祈り」の英語の祈りと言えば、白光真宏会でも現在も色々と試行している最中であり、タイトル名を“**Prayer for the Peace of the World**”にするか“**Prayer for World Peace**”にするかも決めかねているのが現状です。前者は日本語版の『白光』誌の表現であり、後者は英語版“**BYAKKO**”の表現です。ちなみに、唯一会では“**The Peace Prayer**”に定めております。また“**On Earth**”という表現も、将来宇宙人と空飛ぶ円盤の中で一緒に祈るようになったら、「地球上」とか「地上」という表現から本来の「世界人類」に変えなくてはならないかも知れません。そうなりますと、“**May Peace Prevail on Earth**”という英語の表現も変える必要が出てくるかも知れません。なお、人類という言葉については、“**Mankind**”や“**Humankind**”では“**Man**”が用いられているから男女差別だと言っている人々もいます。その人たちは“**Person**”か“**Persons**”を使うようにしていこうと主張しているのです。こうした点については、外国人のご意見も参考にして、私の世代で、守護の神霊とも相談しながら英語版の「世界平和の祈り」を一つに定めておかなければならないと思っております。

参考質疑：英語訳「世界平和の祈り」について

【ご感想-1】〔唯一会の英文の祈りの方が、より人間の側に立った表現のように感じる〕

“**May peace be in the world**”は、“**May peace prevail on earth**”に比べてひびきが弱いようなので、もう世界は平和に向ってかなりよい方向に進んでいるので、これからは弱いひ

びきでも大丈夫なのかな? と思いました。別の表現をすれば、“May peace prevail on earth” はより真理（神様）側に立った表現であり、“May peace be in the world” はより人間側に立った表現であると感じました。

【お答え-1】〔神様の立場で祈ると May を省くが、人間が神様の立場で祈るのは不自然〕

このような論議は、インテリジェントな会話で楽しいですね。唯一会会員には詳しい経過と理由をお知らせしたのですが、ここでは簡単にお答えします。

私は英語訳「世界平和の祈り」を新しく創るに当たり、次の英語版聖書を参考にいたしました。

“HOLY BIBLE” (New International Version) Zondervan Bible Publishers, Michigan.

“GOOD NEWS BIBLE” (Today's English Version) American Bible Society, New York.

同じ聖書で同じ英語でも、ずいぶん英語の表現が異なることに驚かされます。

神様の立場で祈りますと“May”を省きます。“Peace be in the World”は「世界よ、平和であれ」という意味になります。人間側から祈るために“May”を付けているのです。イエスが神の立場から権威をもって「汝に平安あれ」と祈った時は“Peace be for you”です。“for”の代わりに“to”“with”という表現もあります。“May”を付けないと神様の側に立っていて、確かに強い表現でもあるのですが、言われる立場にとっては威張ったように聞こえてしまうのです。五井先生が「世界よ、平和であれ」という表現を定型の祈り言にしなかったのは、私たちが祈るにはそれは不自然であるからです。

【ご感想-2】〔「神様お願いします」を付けると、より人間に近い表現になるように思う〕

世界平和の祈りの前に「神様お願いします」と付けると、より人間側の立場に近い表現であり、付けないと神様側からの表現に近いと思います。

【お答え-2】〔肉体人間の立場から祈る方が自然で、却って早く神の子を自覚できる〕

日本語の「世界平和の祈り」と同じで、英語訳スタンダードも「神様お願いします」は省略されております。これは日本語の「世界平和の祈り」と同じことで、「神様お願いします」を付けようと付けまいと各人の自由です。ただ、「世界平和の祈り」に全託する感覚を掴みたい人は、「神様お願いします」を付けた方がよいと思います。想念波動変換原理を知っている人は、無理に最初から自己を神様の立場に立たせる必要がないことを知っているはずで、「自己の内なる神が世界を平和にする」という気持ちで「世界平和の祈り」を祈っても、それは自由ですが、私はあくまでも自然な形を重視しており、肉体人間の立場から祈ることを勧めております。不思議に思われるでしょうが、その方が却って早く神の子を自覚できるようになるのです。

【ご質問-8】 [英文の表現の変更は、五井先生がご存命でないことと関係があるのか]

これらの表現の変更は、五井先生という神様の（強い）光がそのまま現れたような方が現在は地球上に（肉体人間として）ご存命していないことと何か関係あるのでしょうか？

【お答え-8】 [好きな方を選んでよいが、私は原文の直訳に最も近い英語で祈りたかった]

そういうこととは関係ありません。唯一会の英語訳「世界平和の祈り」の基準として新しく創ったのでありまして、WPPS とグローバルリンクなどで合同で祈る時には、今まで通り WPPS の祈りの方式、すなわち“May Peace Prevail on Earth”に合わせて祈ります。日本語では同じ「世界人類が平和でありますように」であるのに、英語訳の表現が違うからといって心を合わせないのでは狭量すぎます。

唯一会の基準としては“May Peace be in the World”を用いますが、今まで通り WPPS と同じ表現の“May Peace Prevail on Earth”をお使いになって構いません。この二つは二元論のような矛盾した原理ではなく、日本語入力の方式として JIS キーボードと NICORA キーボード（親指シフト）の二方式があるように、ほぼ同じ意味であるのですから、祈り言もお好きな方を選んだらよいと思います。

“May Peace Prevail on Earth”は30年間も用いられてきて、すっかり定着した感がありますが、言いかえると、私は30年間「この英語訳で本当によいのだろうか？」と考え続けてきたのです。確かにキリスト教の思想が色濃い欧米で、聖書に近い表現として欧米人にはこれでよいかも知れません。しかし、日本人の私にとっては、欧米人にはごちなく聞こえてもよいから、原文の直訳にもっとも近い英語で祈りたいと強く想い続けていたのです。このことは、日本人の私だけでなく、日本語に堪能な知識人のアメリカ人の中にも、私と全く同じ考えの人もいます。ともあれ、唯一会の英語訳「世界平和の祈り」の基準として、今後は“May Peace be in the World”の英語訳を用いてまいりますのでよろしくお願いいたします。